

平成 25 年度 学内教育 G P プログラム事業経費計画書（継続型）

事業名称	24 時間利用できる授業・学習支援システム Plone の定着と拡張
取組代表者名 担当者名	* 事業担当者は全員記入してください。 半田智久・石田千晃・中村由樹子・青砥早希
事業内容	<p>* 事業内容については、大学全体の波及効果や支援期間後の見通しも含め、具体的に記入してください。なお、計画書は適宜広げて（本用紙を含め 2 枚以内）記入してください。</p> <p>本事業では現在、本学において 24 時間利用可能なかたちで稼働している授業・学習支援システム plone の定着と改善、拡張にむけた取組をおこない、授業時間外学習を含めた十分な学修時間の確保と実質化、およびその質的向上を促進する。</p> <p>事業の具体的な内容は、次のとおりである。</p> <p>(1) plone は現在、学士課程カリキュラムを対象にしてサービスを実施している。本事業ではこれを大学院のすべての授業科目においても利用できるように構成を拡大する。むろんこの場合 alagin の時間割表示システムをポータルにして、そこからのリンクを介して入ることができるようにする。そのため時間割システムについても大学院生全員に利用できるよう拡張される。</p> <p>(2) plone については現在、利用教員数 30 名程度、利用学生数は 1000 名を超えているという状況にある。今後は学修状況チェックシステム alagin の活用効果も手伝って、さらに利用ユーザー数が増加する可能性が高い。その場合の安定運用を維持していくために必要な plone の機能拡張、メンテナンス、運用体制の整備をおこなう。</p> <p>(3) 総合学修支援センターや広報、あるいはリーダーシップ養成センター、グローバル人材育成推進センターなどでの業務課題に plone を活用できる方途を見いだし、その適用をはじめめる。</p> <p>(4) plone や moodle の連携な活用や定着を促進するため、利用説明会や教員・学生による活用事例報告などの FD セミナーを引き続き定期的実施していく。</p> <p>以上、主として 4 項目の事業内容を平成 25 年度に推進し、達成する。</p>

平成 24 年度 学内教育 G P プログラム事業の進捗状況と今後の事業計画（継続型）

取組代表者 半 田 智 久

事業名称	多次元的な学士力養成を担う総合的な学修支援のうちの 24 時間利用できる授業・学修支援システムの整備と定着
現在の進捗状況	<p>* 24 年度に助成を受けている課題については、事業計画に即して成果を詳細かつ客観的に記載して下さい。</p> <p>(1) 本事業以前、授業・学修支援システム moodle と plone を利用する学生は、それぞれ別個のルートでログインしていた。本事業の実施によってこれを学生個人の履修時間割(alagin)をポータルにして、一回のログイン認証をもって目的とする授業の plone ないし moodle につながるようにすることができた。これにより学生は別個のシステムを意識することなく複数の授業について一元的にこれらのシステムの活用が可能になった。</p> <p>(2) plone についてはシステムのバージョンを最新のものに改訂し、2011 年度末に本学の学修支援体制に関しておこなった学生に対する質問紙調査であきらかになったインターフェースや動作について、複数の課題の改善をおこなった。その結果、使いづらかった多くの点が改良された。</p> <p>(3) 常時利用者数の増加を見据えて、操作反応性を落とさずに運用するための負荷分散の方途を立てた。</p> <p>(4) moodle および plone の連携的な活用や定着を促進するため、利用説明会や教員・学生による活用事例報告などの FD セミナーを 2012 年度計 9 回実施した。</p>
今後の事業計画	<p>本事業期間終了後、この 24 時間利用可能な授業・学習支援システムは課題のほとんどを解決し、現況に比較して利用の定着と大学院を含めた文字どおり全学での利用に拡張が図られたかたちで活用されていることが見込める。</p> <p>また、少なくとも plone については年間本件と同程度の経費で引き続き運用していくことができるよう整備を進める。</p>